

軽防協ニュース速報（号外）

2003年2月7日
軽種馬防疫協議会 事務局
(JRA 馬事部防疫課)

米国におけるウマヘルペスウイルス1型（EHV-1）による神経型の発生

米国オハイオ州におけるウマヘルペス1型（EHV-1）による神経型の発生の概要についてお知らせいたします。

2003年1月末に、オハイオ州北西部のフィンドレー大学の乗馬センターに繋養されていた乗用馬にウマヘルペスウイルスによる神経症状が発生した。繋養馬135頭のうち多くの馬に発熱、鼻汁、四肢の浮腫が認められ、それに引き続き、神経症状を発症した馬も認められた。2月3日現在、神経症状を認めた30頭中12頭が安楽死処置となった。

オハイオ州家畜疾病診断研究室、およびオハイオ州立大学獣医学部の獣医師によって行われたPCR検査およびDNA配列解析試験により、EHV-1が原因ウイルスとして確認された。1月最終週に、Dr. George Allen 氏にて血液サンプルが送付され、ケンタッキー大学マックスウェル・H・グリュック・エクワイン・リサーチ・センターで行われたウイルスの分子型および血清型に基づく検査結果からも、原因ウイルスがEHV-1であることが確認されている。

発生を認めた乗馬センターでは、施設内への出入りを禁止する自発的な隔離措置を行っている。